



第二ぎんなん便り

社会福祉法人つなぐ育成会
熊本市手をつなぐ育成会
第二ぎんなん作業所
平成28年8月25日発行
第363号

相模原での殺傷事件を考える

○「重度の障がい者は生きる価値がない……」

ほぼ1ヶ月前、神奈川県相模原市の障がい者施設で凄惨な事件が起き、何の罪もない多くの知的障がいのある人たちの命が失われました。この事件はさまざまな視点から論じられる必要がありますが、今回の事件で私が最もおそろしさと憤りを感じるのは、重度の障がい者は生きる価値がない、だから殺した方が社会のためになるという身勝手な動機・価値観です。



○生きとし生けるものすべてがかけがえのない命。その生命に対する冒涇、脅威

今回の事件は、障がい者の人権や共生社会の実現というレベルの話ではなく、さらには、障がい者だけの問題でもなく、この世に生を受けたすべての生命に対する冒涇であり、生存に対する脅威と捉えなければならないと考えます。

事件を聞いて、すぐに第二次世界大戦中のナチスドイツによるユダヤ人ホロコーストと並行して進められた知的障がい者に対する大虐殺が頭に浮かびました。その後、犯人がヒトラーの優生思想に心酔という報道があり、やはりそうかと合点がきました。しかし、もしかすると、この考えは今回の犯人一人だけではないかも知れません。おそろしさを感じるのはこの点です。

○人が人の生きる価値を判断できるのか、許されるのか

重度の障がい者は生きる価値がない……。本当に悲しくて戦りつを感じる人間観です。人の価値が生産性や役立つかどうかで判断され、強い者しか生存が許されないとするならば、次に対象となるのは、働くことができなくなかった病気の方たちや高齢の方たちなどでしょう。人が人を生きる価値があるかないかと判断する、そんな国や社会で暮らしたいでしょうか。私たちは、だれもが心安らかに暮らせる国や社会を望んでいるはずです。

○誰もが心安らかに暮らせる社会や国に

障がいを伴って生まれた、途中で障がい者になった、生活に困窮した、病気になった、高齢で動けなくなった、こういう社会的に弱者と言われる人たちを、社会や国家がどう支えていくか、それがその社会や国家の文化の程度を計る

バロメーターであると言われています。

今の時代でも、いろんな社会や国があると思いますが、この日本に生まれた以上は、障がいがあっても、途中で障がい者になっても、病気や高齢で動けなくなっても、国や社会が責任を持って支えますよという国や社会で暮らしたいと思うし、そのような成熟した福祉国家・社会でなければならないと思います。

命を大切にできる社会、国家でありたいし、大切にできる文化や風土が今こそ重要だと、今回の事件のことで痛切に思ったところです。



受託作業 がんばっています

第二ぎんなん作業所の仕事内容の一つに草取りや庭木の手入れをする受託作業があります。昨年も利用者の皆さんの工賃UPにつながった受託作業ですが、今年もたくさんの依頼をいただいています。



受託担当の前田です

この日は、花園にお住まいの方のお庭の依頼をいただき、職員1人と利用者3人で作業に行きました。依頼は今年で3年目ですが、作業の様子を見て、「きれいになっていますね、ありがとうございます。」とやさしい声をかけていただくこともあります。

来週から9月、暑さももう少しですが、熱中症などに気をつけて水分補給しながら作業をしたいと思っています。

少しずつですが依頼も増えていて、花園の作業が終わると、次の場所の予定も入っています。

皆さまとところで草取りや庭木の手入れのご要望がありましたら、ぜひお声をかけてください。

どうぞよろしくお願いします。



「がんばってきれいにすぞ!!」

大江1町内ふれあい夏祭りに販売で参加

昨年まで山の上団地夏祭りだった「大江1町内ふれあい夏祭り」に、第二ぎんなん作業所も、例年どおり、職員でかき氷、ヨーヨー釣りや竹とんぼ、ぶた串販売などのバザーに参加しました。

祭りの主役はやはり子どもたち。少子化で地域から子どもが減っている中、この団地も小学生は7人程度ということでしたが、近所や知り合いの子どもたちも集まって賑やかさを増していました。大人たちはビールを片手に三々五々。

バンド演奏やひょっとこ踊りの出し物もあり、夏の夜のとても和やかで楽しいひとときでした。



祭りの様子 (バンド演奏)



子どもたちに人気の
ヨーヨー釣り



バザーの販売準備

作業所に、介護等体験、初任者研修などで来所

8月は何人かの方が研修で来所されました。

■介護等体験 中村愛恵 (かなみ) さん

小・中学校の教員免許取得には、福祉施設で5日間、特別支援学校で2日間の体験実習が法律で義務づけられています。22日



(月)~26日(金) かずみさんと作業するの日程で、熊大文学部 介護等体験の中村さん3年の中村さんが体験実習に来られています。

■初任者研修の社会体験研修 甲斐陽三先生

今年度、教諭に採用された初任者への研修の一環として、2日間の社会体験研修が組まれています。24日(水)、25日(木)の2日間、熊本支援学校の甲斐陽三先生がお出でになりました。



森川さんと空き缶つぶしに励む甲斐先生(右側)

※1年で最も暑い時期、利用者と一緒に汗をかき、障がいのある人たちの学校卒業後の姿について、実際の体験を通して理解を深めました。これを機会に、更に障がいのある人の学校卒業後の生活や姿について関心と理解を深めていただければと思います。実習大変お疲れ様でした。

■人権研修 熊本支援学校の先生方が6人来所

夏季休業を利用し、自分たちが日頃関わる児童生徒の卒業後の姿を学びたいと、8日(月)に6人の先生方がお出でになり、作業や利用者の様子を熱心に見学されました。

暑さに負けず 作業の後のかき氷

今年の夏も暑い夏でした。8月中旬以降、35度超の猛暑日が続いていますが、その中でも、利用者は体調を崩すこともなく、弱音も吐かずに汗をかきながら元気に作業にがんばっています。

7月下旬から、金曜日午後のリフレッシュの時間にかき氷が登場しました。

月曜日から金曜日午前中まで作業したあとのかき氷は、利用者がとても楽しみにしています。1週間、作業で汗を流したあとだけに、週末に食べるかき氷は一段とおいしく感じられます。



※作業の後の一杯のかき氷のおいしさ



今年の夏は、チベット高気圧の張り出しで太平洋高気圧が東に寄っていることもあり、台風が、本州から北海道の方にたくさん来ています。地震で打ちのめされた熊本に台風が来ないのはうれしい限りですが、他の地方の被害も心配になります。

台風が来ない代わりに連日の猛暑日が。しかし、来週からは9月。朝晩幾分涼しくなったような気もしますが、日中ももっと涼しくなってほしいなど、汗だくで作業をしながら待ち望む毎日です。

まだしばらくは、厳しい暑さが続きそうです。くれぐれもご自愛いただき、厳しい夏を乗り切りましょう。(高橋)

